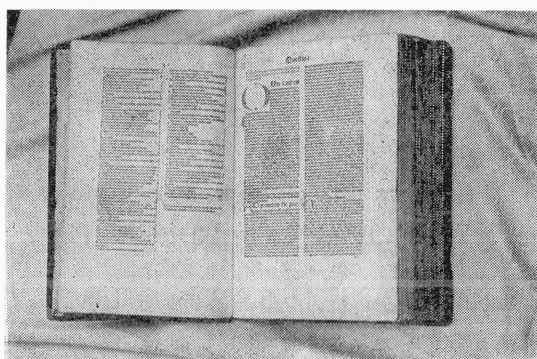


上野文庫1冊のインキュナビュラについて

第2期の上野文庫目録は昨年から今年にかけて3分冊のかたちで刊行された。本文庫の内容一般についてはしばしば紹介されているので、ここでは「一般部門(2-1)」に掲載されている1冊のインキュナビュラにふれてみたい。

Thomas Aquinas: Summa theologiae. Pars 1.
Venetus: Antonium de Strata de Cremona,
1482.

インキュナビュラ Incunabula は、もともと揺り籠を意味するラテン語であるが、書誌学の用語としては『揺籠期本』の文字をあて、1550年代のグーテンベルグによる活字印刷の開始から、その世紀の終りまでの約50年間に出版された活字本を総称させている。本書、聖トマス・アクイナス『神学大全』は上に掲げたように1482年ヴェニスで出版されている。イタリアへの印刷術の導入は1460年のなかば頃といわれる。ドイツにおくれること約15年であるが、たちまちヨーロッパの出版の中心となった。なかでも、ヴェニスが頭角をあらわして、イタリア全体の約3分の1の印刷者がここに集中したといわれる。この書物の印刷者については、同じ上野文庫の蔵本 H. F. Brown: Venetian printing press. の資料「1469年以降ヴェニスにおける印刷者と書肆リスト」中に“Antonio de Strata(1481)”として出てくる以外詳しく知られていない。(1481)は創業の年であるから、この出版者にとって本書は最も初期の労作のひとつであったろう。この頃ヴェニスではすでにジャンソンの清新で、とくに垂直の線の流れが見事なローマン・スタイルの活字が使用されはじめるが、本書に用いられているのは、まだ古風なゴシック体である。表紙は薄く削った桎板——この頃はブナ(Buche)が多用された——を褐色のカーフでおおい、唐草風の型押しを施してある。タイトル・ページはなく(タイトル・ページの一般的な普及はずっと後のことである)、本文の活字はいまの9ポイント活字ほどの大きさ、1ペー



ジをダブル・コラムスに組んである。用紙はラグ・ペーパー、全体として保存は良好である。朱と青の彩色文字(手書き)が各頁に配されていて鮮かである。あと見返しの紙面に牡牛とバラの透しがはっきる見えるが、これはイタリア製紙業の発祥の地モンテファノ産の用紙であることを示す。

ところで、どのような経緯でこのインキュナビュラが上野文庫に架蔵されることになったのか。本書だけでなく、同目録の「宗教史」の項には17世紀までの出版物が数十点集中している。とくに多いのは16世紀末から17世紀にかけての『日本イエズス会年報』の類である。この疑問は、『上野精一文集』(1972年)が出版され、そのなかで、氏が Relacion とか、Zeytung とかの名のつくものを購入したが、「これは必ずしも耶蘇会の報告年報を読むわけではなく、単に新聞の一形態としての見本のつもりで見るのである」(p.308)と書いておられるのを拝見して氷解したように思った。つまり「ジャーナリズムの歴史」の資料だったのである。そういえば、本文庫に多くみられるマルコ・ポーロ、ハクルート、ピントなどの旅行記、航海記もこのような意味での蒐書であったろう。

ここでふれたインキュナビュラの『神学大全』も、このような古文庫蒐書の過程でたまたま入手されたのではなかったらうか。

今回の第2期上野文庫目録の刊行にあたって、上野家から拝借した資料のなかに、20数冊の手書きの蒐集ノートが含まれていた。その第1冊、〈昭和5年12月起〉としたためられたノートの冒頭に、マルコ・ポーロ『東方見聞録』（1671年）と、本書トマス・アキナス『神学大全』があい

ついでかかげられ、以下、同時期に購入されだと思われる『イエズス会年報』をはじめとする16—17世紀の宗教書の書名が数十点かきつらねられているところを見ても、上の推測は裏づけられたように思えるのである。

（経済学部 高橋俊哉）

資料紹介

Cahiers du Communisme. Comite Central du Parti Communiste Français.
Year 1924-1972 in 92 units. Paris, 1924-1972. Reprint.

本誌は、1924年11月フランス共産党中央委員会によって党の理論機関誌として創刊されたもので、創刊当時は“Cahiers du Bolchévisme”の誌名であった。本誌創刊の10ヶ月前にレーニンが死亡し、また、当時唯一の共産主義雑誌“Bulletin Communiste”が一週間前に廃刊になるなど、レーニンの思想をマルクス主義の立場から科学的に紹介する重要な時期であった。創刊当時は国内闘争やフランス共産党史に重点をおき、第二次大戦

の時期には反ファシズム・キャンペーン、1940年から1944年のドイツ占領下では地下出版で続行したが、この時の資料は現存していない。戦後は、各号特集を組み、内外の政治闘争、社会、経済、文化、哲学、科学など総合的に論文を掲載している。本誌は、共産主義やフランス現代史の研究ばかりでなく、国際政治全般にわたる研究資料として重要である。

American Federation of Labor and Congress of Industrial Organization
Pamphlets (1889-1955). 19 reels of 35mm microfilm.

この資料は、1889年からAFLとCIOが合併した1955年に至る65年間にわたって発行、配布されたパンフレット類のマイクロフィルム版である。労働組合員や労働者に対する教宣手段として重要なパンフレット類は散逸することが多いが、この資料にはアメリカの指導的な労働組合運動家

の執筆したパンフレットを収録している。65年間にわたる各時代の政治、経済政策や外交政策、社会福祉問題など鋭敏に反映しており、アメリカ労働運動史のみならず、各時代の政治、経済、社会の研究に重要な基本的資料である。

Japanese Economic Statistics. General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, Economic and Scientific Section, Research and Statistics Division. Bulletin. Nos.1-64; Sept. 1946-Dec.1951. Photoreprint. Ed. 68 vols.

Japanese Economic Statistics. Economic Stabilization Board, Japanese Govt. Bulletin. Nos.65-105; 1952-1956. Photoreprint. Ed. 111 vols.

この資料は、昭和21年から昭和31年にわたる日本の経済統計であり、写真複製版である。終戦

後、連合軍の支配下において、日本経済は混乱し、経済統計もまとまったものがなかった。この